

東京国立近代美術館 収集方針

東京国立近代美術館本館では、19世紀末から今日までの日本画、洋画、彫刻・立体造形、版画、水彩・素描、写真、映像作品を、日本を中心に、日本に影響を与えた海外作家の作品も合わせ収集している。年度計画の中では、①1970年代以降の日本と海外の作品の収集、②日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集、③1900～1940年代の日本画などの収集に特に注力することになっており、令和3年度は①について、青木野枝、横溝静、オノデラユキと、いずれも現在活躍中の女性作家の作品を収集し、多様化する現代の美術の動向をより広く紹介することが可能となった。また②として、長く国内の個人蔵であったパウル・クレーの作品を収集し、海外流出を防ぐことができた。③として、速水御舟、竹内栖鳳について、いずれも作家のキャリアにおける重要作を収集できた。

工芸館では、文化庁からの管理換えによる伝統系の作品を核としつつ、近代以降現代にいたる展開や時代ごとの動向を示す工芸及びデザイン作品を収集し、その歴史的な流れが概観できるコレクションの形成を目指している。令和3年度は、収集方針にあげている日本の工芸の近代化を示す作品として、北大路魯山人の《紅白椿鉢》、六代清水六兵衛の《嵯峨野花瓶》、黒田辰秋の《乾漆羅貝螺鈿食籠》などを購入した。魯山人は金沢にゆかりが深い陶芸家でもあり、今後、国立工芸館を代表する作品となろう。六代六兵衛と黒田の作品は、公募展出品作であるとともに、作家を代表する技法を端的に知ることができる。資料的にも貴重な作品として、バーナード・リーチの《Donburi (楽焼葡萄文鉢)》や竹久夢二の人形作品2点を購入した。リーチの作品は活動の最初期のもので、日本で学んだ陶芸の技や技量を知る手掛かりとなる。夢二の作品においては、制作期間に限られる極めて貴重なもので、長く寄託作品として展覧会で展示紹介してきた。金沢には夢二作品を研究・展示する美術館があり、この作品をきっかけとして相互の研究がさらに進むことが期待される。

東京国立近代美術館 美術作品購入一覧（令和3年度）



＝特別予算購入

1	 <p>種別：日本画 作者名：速水御舟（1894-1935） 作品名：溪泉二図 制作年：1921年 材質・形状：紙本彩色・軸（双幅） 寸法：各50.8×45.3cm</p> <p>解説：大正から昭和初期にかけて日本画の変革を推進した速水御舟による、細密描写を特徴とする風景画。点描とハッチングを主体とした色彩表現など実験性の高い一品。</p> <p>取得額：237,600,000円 展示予定：展示（所蔵作品展；2022年5月17日-7月24日）</p>
2	 <p>種別：油彩その他 作者名：パウル・クレー（1879-1940） 作品名：黄色の中の思考 制作年：1937年 材質・形状：油彩・綿布に油性下地 寸法：98.0×47.0cm</p> <p>解説：近代美術史上の重要作家、パウル・クレーの大作。色面を線で抽象的に分割する中から具体的形象が現れ出てくる、クレー晩年の代表的作風を良く示す。</p> <p>取得額（円）：297,000,000円 展示予定：展示予定（所蔵作品展；2023年3月-5月）</p>
3	<p>種別：彫刻 作者名：青木野枝（1958-） 作品名：雲谷 2018-I 制作年：2018年 材質・形状：鉄 寸法：207.0×163.4×150.0cm</p> <p>解説：1990年代以降、日本を代表する彫刻家の一人である青木野枝の近作。円を層状に溶接した、青木に特徴的なスタイルを凝縮した作品。</p> <p>取得額（円）：— 展示予定：計画中</p>

4	<p>種 別 : 映像</p> <p>作 者 名 : 横溝静(1966-)</p> <p>作 品 名 : That Day / あの日</p> <p>制 作 年 : 2020年</p> <p>材 質・形 状 : シングルチャンネル・ビデオ、ライティング Ed. : 1 of 5 +1 AP</p> <p>寸 法 : 12分19秒 (ループ)</p> <p>解 説 : ロンドンを拠点に活躍する作家、横溝静による映像作品。東日本大震災をモチーフに、写真におけるイメージの生成と消滅、人の記憶の生成と消滅などを重ね合わせた思索的な作品。</p> <p>取得額 (円) : ー</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
5	<p>種 別 : 写真</p> <p>作 者 名 : オノデラユキ(1962-)</p> <p>作 品 名 : Transvest - Wyan</p> <p>制 作 年 : 2005年</p> <p>材 質・形 状 : ゼラチン・シルバー・プリント ed. 4/7</p> <p>寸 法 : 199×128cm</p> <p>解 説 : 写真というメディアの持つ可能性を実験的に探求する作品で評価の高いオノデラユキ。本作は雑誌などの印刷物を人型に切り抜き、空間につるして逆光で撮影したシリーズからの一点。</p> <p>取得額 (円) : ー</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
6	<p>種 別 : 写真</p> <p>作 者 名 : オノデラユキ(1962-)</p> <p>作 品 名 : Transvest - David</p> <p>制 作 年 : 2005年</p> <p>材 質・形 状 : ゼラチン・シルバー・プリント ed. 1/7</p> <p>寸 法 : 188×128cm</p> <p>解 説 : 写真というメディアの持つ可能性を実験的に探求する作品で評価の高いオノデラユキ。本作は雑誌などの印刷物を人型に切り抜き、空間につるして逆光で撮影したシリーズからの一点。</p> <p>取得額 (円) : 1,848,000円</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>
7	<p>種 別 : 写真</p> <p>作 者 名 : オノデラユキ(1962-)</p> <p>作 品 名 : Muybridge's Twist No.21</p> <p>制 作 年 : 2019年</p> <p>材 質・形 状 : 木炭、パステル、クレヨン、写真コラージュ/キャンバス</p> <p>寸 法 : 304×209cm</p> <p>解 説 : 写真というメディアの持つ可能性を実験的に探求する作品で評価の高いオノデラユキ。本作は人や動物の運動を撮影した19世紀の写真家エドワード・マイブリッジの連続写真に着想を得た一点。</p> <p>取得額 (円) : ー</p> <p>展 示 予 定 : 計画中</p>

8	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : 北大路 魯山人 (1883-1959)</p> <p>作 品 名 : 紅白椿鉢</p> <p>制 作 年 : 1938-40年</p> <p>材 質・形 状 : 陶器、色絵</p> <p>寸 法 : h21.3×w43.0×d41.8cm</p>	<p>解 説 : 金沢とのゆかりも深い北大路魯山人は、書・陶芸・漆芸・篆刻・料理など、様々な分野で才能を発揮し、後進にも大きな影響を与えたマルチな芸術家。本作は魯山人作品を代表する「椿鉢」の中でも最大級で、器形の美しさ、図案やコンディションの良さに、とくに優れている大鉢である。</p> <p>取得額 (円) : 59,290,000円</p> <p>展 示 予 定 : 展示予定 (こどもとおとなの自由研究 工芸の○△□×展にて:7月初旬~9月初旬)</p>
9	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : 六代 清水 六兵衛 (1901-1980)</p> <p>作 品 名 : 嵯峨野花瓶</p> <p>制 作 年 : 1952年</p> <p>材 質・形 状 : 陶器、色絵、金彩</p> <p>寸 法 : h42.3×w33.1×d33.1cm</p>	<p>解 説 : 六代清水六兵衛は、伝統に立脚しながらも時代感覚を反映した新しい技法の開発に意欲を燃やし活動を展開した日展工芸部を代表する陶芸家。本作の共箱には、自らが「昭和二十七年第八回日展出品作にして最も快心の作なり」と書きとめている。その後の新軸のきっかけをも掴んだ代表作である。</p> <p>取得額 (円) : 1,980,000円</p> <p>展 示 予 定 : 「未来へつなぐ陶芸」展出品</p>
10	<p>種 別 : 陶磁</p> <p>作 者 名 : バーナード・リーチ (1887-1979)</p> <p>作 品 名 : Donburi (楽焼葡萄文鉢)</p> <p>制 作 年 : 1919年</p> <p>材 質・形 状 : 楽</p> <p>寸 法 : h9.7×d23.3cm</p>	<p>解 説 : バーナード・リーチは日本の近代工芸史を紹介するうえで欠かせない陶芸家。本作はリーチが本格的に活動する前に制作された楽焼の鉢で、やきものに触れたばかりのリーチの視点や考えが見て取れる資料的にも貴重な作品。</p> <p>取得額 (円) : 1,100,000円</p> <p>展 示 予 定 : 展示予定 (工芸館と旅する世界展:12月下旬~翌2月下旬)</p>
11	<p>種 別 : 漆工</p> <p>作 者 名 : 黒田 辰秋 (1904-1982)</p> <p>作 品 名 : 乾漆耀貝螺鈿食籠</p> <p>制 作 年 : 1974年</p> <p>材 質・形 状 : 漆、耀貝、螺鈿</p> <p>寸 法 : h16.0×d26.0cm</p>	<p>解 説 : 黒田辰秋は、民藝運動にも参加する一方、卓越した技量により現代的な造型性をも盛り込んだ作品を発表し続けた木工家で、重要無形文化財「木工芸」の保持者。本作は、耀貝を全面に施した大振りな食籠で、黒田の耀貝作品を代表する1点。1974年の第21回日本伝統工芸展出品作。</p> <p>取得額 (円) : 14,300,000円</p> <p>展 示 予 定 : 展示予定 (MOMATコレクション薫風の季節/没後40年 黒田辰秋:5月中旬~7月下旬)</p>

12

種	別	:	漆工
作	者	名	: 二十代 堆朱 楊成(1880-1952)
作	品	名	: 存星白龍文平卓
制	作	年	: 1940年
材	質・形	状	: 漆、存清、蒔絵、平文
寸	法	:	h13.0×w60.0×d42.0cm
解	説	:	平卓の天板に白龍の姿が、堆朱技法にとどまらず、蒔絵や平文といった各種の漆芸技法を用いて描き出されている。渡来品の模倣ではなく、近代の創作性を重視した二十代堆朱楊成の制作姿勢が示された代表的作品に位置づけられる。
取	得	額（円）	: 2,400,000円
展	示	予	定 : 展示予定（常設展松田権六コーナーにて：12月下旬～翌2月下旬）

他14点／計26点 購入総額：644,181,467円